

もったいない！未来のために
母の視点で よりも で見直し
次世代に借金、リスクを残さない

県議会議員 西村久子 県政報告

第26号

発行 西村久子

彦根市甲崎町

TEL・FAX 43-4700

Eメール hisako@country-farm.net



今日よりも明日

寒くなりました。気温もさることながら、期待を込めたカレンダーは枯葉の散るごとく一枚一枚落ちていきました。私たちの暮らしは、厳しく冷え冷えとしたことが多かった一年でした。

しかし、ペルー鉱山における落盤事故、地下700mから69日ぶり33人全員救出は、世界中の人が固唾を飲んで見守り、全世界がバンザイに沸いた瞬間、「人間の力ってすごい！」と、心から思いました。多くの方の祈りが通じたのです。宇宙飛行士用に製作されていた日本製の臭わない肌着の提供が、大きな効果を挙げていたことを後で知りました。「日本の技術もすごい！」・・・あきらめず、最善の努力を続ける、きっと解決の道はある、そして、不可能を可能にした最短の時間での救出、・・・

厳しさも寒さも、これからです。どうぞ不況に負けないで、来年こそ・・・の希望を持ち、おそらく越年いただけたことを、心からご祈念申し上げます。



滋賀県の財政事情

多い年には6,000億円を超えた予算、2年続けて5,000億円を切っているが、来年度もまたそなざるをえない状況。財政健全化に向けて平成10年以来数次にわたり財政構造改革に取り組んできたが、平成23年度においても190億円の財源不足、24年度以降においても毎年200億円前後の財源不足が見込まれる状況。その一方で、財政調整基金や県債管理基金の残高見込みが合計しても50億円程度しかなく、続けて危機的な財政状況が見込まれています。

平成21年度決算の県税収入は1,370億円、これは平成20年度に比して、-454億円（△24.9%）

県債残高9,631億円 県民一人当たり約68万円の借金があります。

来年度予算編成にあたっては、「住み心地日本一の滋賀」と威勢良く、新たな基本構想に基づいて、知事選マニフェスト8つの重点施策に特別予算枠を設けて着実な推進を図るとされています。

8つの重点施策

- ① 子育て・子育ち応援
- ② 働く場への橋かけ
- ③ 地域を支える医療福祉・在宅看取り
- ④ 低炭素社会の実現
- ⑤ 琵琶湖の再生
- ⑥ 滋賀の未来成長産業
- ⑦ 地域の魅力あるごと産業化
- ⑧ みんなで命と暮らしを守る安全・安心



県立高校の統廃合

…計画策定は、今後一年かけて意見掌握や説明に努める…

県教育委員会は、県立学校のあり方検討委員会から、「学校の廃止を含めた大幅な統合・再編の必要がある。学校規模は一学年あたり概ね6学級から8学級程度が妥当である。」との報告を受け、統廃合計画を策定する事を公表。以来、県内各地より地元高校の存続を求めての請願が今も続いている。

知事マニフェストには、「就業体験やインターンシップを実施する高校を増やす。」とあります。今の時点で知事は、数字と財源ばかりが前面に出て、私の思いとは全く違う、再編は必要だが、学年5クラス以下の25校の統廃合は想像もしていない。生徒の要望、キャリアアップに応えられる学科編成や教育支援体制になっているか、地域と学校がつながっている実態と成果を検証する必要があり、計画策定が拙速にならないように教育委員会に言っている。…と抗議口調で言っています。

再編の具体的な考え方については、特色ある学校づくり、バランスの良い学校配置、職業系専門学科・総合学科の再編成、活力ある学校づく

り、定時制課程の見直し等、子供のためにどうあるべきか…計画策定を1年延期し、県民の幅広い意見掌握と説明に努めることになります。

最近になって、政府は幼保一元化の「子ども園」構想を今にも実施しそうな勢いで関心を買っています。

今日の少子高齢社会プラス経済不況にあって、男性も女性も働くなければならないことも理解は出来ますが、子どもにとって何が一番の幸せか、三つ児の魂百までのことわざが、何を意味したものなのか、崩れている家庭教育を全て社会が補いきれるのか、変わることの出来ない家族愛をどうして繋いでいくのか考える必要があると思います。県内関係団体の幼稚園、保育園、認定子ども園、それぞれの団体からは疑問の声が高く今なお国に対し反対の意向を主張し続けておられます。

ワークライフバランス、多様な働き方が出来るようにといわれますが、社会で子育て、社会が老後をみる等、本来すべき義務までも放りだすことを助長するのではなく、特に低年齢児にあって、少しでも長く親の体温の中に子どものいられる状況を作り出すことの工夫、また、お年寄りが願われる自宅での暮らしはどうしたら続けられるか、政策の方向を間違えないように主張したいと思っています。

稻枝駅改築

長らくの要望でありました稻枝駅改築については、やっと手の届きそうなところまで話が進んでまいりました。11月11日、JR西日本京都支社に地方6団体の要望に行きました。滋賀県としての優先順位は、重点要望には上がっておりましたが、草津線の複線化など、県としてこれまでの取り組みもあり、JR側との意見の対立も厳しく心配いたしましたが、結果として稻枝駅は、橋上駅舎としての改築は、JRとしても少しでも早

く、是非実施していく旨の答をいたしましたことを嬉しく報告させていただきます。

JR福知山線の事故処理に対してその後の経営判断は厳しく、償還の即認めない事業は実施しない、できない…という強い主張があります。草津線においては、既に駅構内においては用地まで確保しておきながら、展望のない事業の土地購入にいたることもかなわず、土地所有者や関係住民に申しわけが立たない、地域の発展のために…と関係市長や議員の強い

裏面につづく

意見もありましたが、険悪な雰囲気の中でも、早期見通しは困難と突っぱねられる状況でした。

稻枝駅は、老朽化に加えて、4年制になった聖泉大学が、来年度には看護学科を開学されることとなっており、また、今日在学中の障害を持つ学生への対応に、学校側からも早期のバリアフリー化の要求があり、危険であり対処願いたいこと、地域が高齢化し、駅利用者が能登川や河瀬駅に乗り越ししながら、足腰の負担に耐えていること、また、CO₂削減の叫ばれる中にも、ガソリンをたいて離れた能登川駅まで車を走らせていることなどを訴え、多くは望めないかもしれないが、現在5,027人といわれている乗降客が、増える要素のあること、また、西口が開設されることによって地域活性化への大きな弾みとなる期待感などお話をさせてい

ただき、あわせて、今まで地元負担金で躊躇していた彦根市が、定住圏自立構想に基づいて準備が整ったことを伝えました。

バリアフリー化の要件である一日の乗降客5,000人はカツカツの状態であるがクリアしていること、彦根市からも、再三東西自由通路を併設した駅舎改築実施を伝えられ要望が重ねられてきたこと等をあげられ、感触のよいご返事をいただきました。彦根市において現在基本設計が進められているところであり、今後JRと協議に入り実施設計へと進む事になります。

12月10日、稻枝駅舎改築促進期成同盟会の皆さんにより、早朝の啓発活動が行われました。地域の願いの積み重ねで、一時でも早い着工に向け努力を続けてまいります。皆さんには、稻枝駅舎利用のご協力をお願ひいたします。

11月定例議会一般質問 抜粋

児童虐待〇をめざして

信頼しきっている親に虐待を受けて、いたいけない命を落とす。また、深刻な後遺症を残したりと、乳幼児虐待はなあのこと涙を誘います。本来は想像もつかない母子において、残酷な事件の発展を見ることはなあさら心が痛みます。舐めるように可愛がる、目の中に入れても痛くない…と表現されるように、本能的母性愛は、どこに消えてしまったのでしょうか。

こんなことで命を落としてしまった。そんなことしたら、おかしくなるのは当たり前でしょう。…という子育ての常識があまりにも欠落していると考えられませんか。多世代同居の家族で子育て時代から、核家族になって久しくなります。若夫婦による子育てが、社会の支援を受けて、もう定着してもよさそうなのに、事件は益々幼稚になっていきます。多忙から来る母親のストレスから事件に発展なら、その多忙に助け舟を出すことは必要でしょう。

そこで、県内の乳幼児虐待の最近の傾向および所見、また、県は、0歳児を対象に一時預かり無料券の配布を行われますが、この「ほっと安心子育て支援事業」の内容はどのようなものか、あわせて健康福祉部長にお伺いします。

答 乳幼児虐待の最近の傾向について、今年の4月から9月末まで、0歳児から学齢前までの子どもの相談状況からお答えします。

まず、虐待の種別ですが、保護の怠慢、保護の拒否、これが最も多く4割です。次いで身体の虐待が3割強です。これは、ほぼ昨年と同じ傾向となっています。次に相談件数ですが、県の子ども家庭相談センターと市町で受け付けていただいている件数は、約1,000件になっています。昨年の同じ時期と比べまして、約140件増えている状況でございます。

このように相談件数が増えていることは、大変に深刻なことと受け止めておりますが、その一方、市町が母子保健事業や子育て支援事業などの関わりのなかで、早期に発見・対応いただいている、そういう現れでもあろうかと思っております。

「ほっと安心子育て支援事業」について 市町では乳児家庭全戸訪問事業などをしていただいております。このような事業と連携して、1歳までの乳児約12,000人から13,000人の保護者の方を対象といたしまして、保育所一時預かり事業の無料利用券を配布し、保育所に一時気軽に預けていただけるようにしようとするものです。

このことにより、保護者の育児不安や育児疲れを少しでも軽減し、虐待の未然防止につなげていこうとするもので、現在、来年度に向け事業案を検討しているところです。

理性の働く母親なら、一時預かりを利用するなら、前もって準備するでしょう。自制の利かない赤ちゃんの行動によって、なあ、エキサイトしてしまう、度の過ぎることもあるでしょう。でも、こうした事態は突如として起きるもので、子どもの涙いっぱいいつんざくばかりの泣き声、そうしたとき、錯乱する気持ちにストップのかかるのは、愛しく慈愛に満ちた母親の心でしょう、あなたを痛めた我が子を自分の温もり、腕の中でどれだけ抱えてきたのか…にかかっていると思います。政調会でのある保育関係の先生のお話として紹介します。

大きくなった子どもが道を外れそうになったとき、母親が苦労して育

てたのに…との言葉に、僕は保育園で大きくなつた…と言つたそうです。極端な例かもしれません、社会での子育てが当然のことのようになつてしまふと、思わぬ落とし穴があることを心すべき事と思います。

母親像が変わってしまった。子供から離れて自分の時間を持ちたい思いの先行する今のお母さん。ご馳走を食べに行っても、自分の身の回りに子供がまとわりついでいる落着かない昔のお母さん、…そんな古臭い話とお感じかもしれませんか、常識外れの虐待はこうした絆の違いによるとも思われます。

子どもは無抵抗、あなたの中から聞いてきたお母さんの心臓音、一番安心できる母親に邪魔者扱いされるほどの不幸はありません。こどもはお母さんが頼りです。核家族になって子育ての知恵を教えてもらう人はいません。身分かれした途端から、大きな不安が襲います。私はそんな時、家庭科を出ていてよかったです…とつくづく思いました。もし、何も習っていないかしたら、それこそ鬱になつたかもしれません。

家族のつながりが希薄になつた今だからこそ、私は、男女とともに、保育の学校教育が必要であると思っています。子宮頸がんワクチンの公費助成が決められましたが、子宮頸がんの全くの知識もなく、接種する事はないでしょう。道徳モラルの低下があまりにもひどく低年齢化してしまっている今日、大切な命を守るために止む無き措置であることを徹底すべきであると思いますし、派生して、子育てについても、教育として教えていくべきです。高校再編が議論されていますが、こうした一般常識まで教えないければ事件につながる時代だからこそ、せひとも教育の分野で取り上げていただきたいと考えるのですが、教育長の所見を求めます。

答 核家族化や少子化などにより、現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境は、大きく様変わりしてまいりました。

このような社会の変化に対応するためには、学校においても、家族と家庭に関する学習や、子育てについて理解を深める学習が大変重要であると考えております。

学習するにあたっては、子どもとの触れ合いや交流などの体験の充実を図り、コミュニケーションを深めるなど、親となるための学習や子育てを見据えた学習を重視する必要があると考えております。

中学校の技術・家庭の授業では、子どもと触れ合う体験を大切にしており、幼稚園で体験した生徒の感想には、「私たちもこんなふうに大きくなつたんだと思うと、とても感動して、周りの人たちに感謝したくなつた。」といった、子育てへの関心の高まりが伝わってくるものが数多く見られました。

また、高等学校では、親の役割と保育について学習し、子どもを生み育てることの意義を考えさせるとともに、子どもの健全な発達のために、親や家族、社会の果たす役割について学んでおります。

今後とも、子育てへの関心を高め、家族の絆の大切さを考える教育を進め、小・中・高等学校を通して、男女が共に学習する機会の一層の充実を図つてまいりたいと考えております。

